

2020年度 デイサービスひろば 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表 2021年3月4日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練等スペースとの関係で適切である	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>余っている部屋の利用や空間を活用していき</li> <li>たい</li> <li>・利用人数によって狭いと感じることがある</li> <li>・複数名で活動するととなると、各エリアともやや狭い。現在人数制限もある。今後変更、改善予定</li> </ul>
	②	職員配置数は適切である	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数が多い時に少ないと感じる時がある</li> <li>・日によって休日が重なると、少ない場合（利用者に対して）もある。</li> </ul>
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備などは、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜対応している</li> <li>・外国人への伝達は翻訳機などを利用している</li> </ul>
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス対策として、1日2回次亜塩素酸希釈液でふき取りを実施している</li> <li>・毎朝利用児童を、迎え入れる前に清掃をしている</li> </ul>
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者などに対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向などを把握し、業務改善につなげている	○			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	○			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援に於いては、必要に応じて適切に設定するようにしている</li> <li>・発達支援、家族支援は個別支援計画に挙げているが、地域支援に関しては立てられていない児童もいる。</li> </ul>
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議を実施し、職員間の統一を図っている</li> </ul>
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々活動後に意見交換ができていますので、次の立案に反映できる</li> <li>・スケジュール作成の際にはスタッフ間で情報共有しながら立案していくよう心掛けている</li> <li>・同じ人がすることが多い</li> </ul>
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の活動を振り返ることにより、ステップアップにつながるプロ</li> </ul>

						<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムになっている</li> <li>・複数人でのプログラム作成を行っている</li> <li>・固定化されないよう、作成時に変化をもたせている</li> </ul>	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ間で情報共有し、子どもの状況に応じた活動プログラムを作成している</li> </ul>	
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ全員ではないが、その日の支援を担当するスタッフ同士で話ができている</li> </ul>	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				
	19	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録が徹底されており、振り返りの材料としても活用されている</li> </ul>	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもなども支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在対象児童がいない</li> </ul>
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在対象児童がいない</li> </ul>
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要があれば対応している</li> </ul>
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況の共有をしている</li> </ul>
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーバイザーより助言を受けている</li> </ul>
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある		○			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等は積極的に参加している		○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡票などを通じて、保護者と連絡をとっている</li> </ul>
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアトレは実施していないが、保護者支援としての交流会で応用行動分析について学んだ</li> <li>・スーパーバイザーからの助言をもとに、活動中保護者との会話の中に対処力向上に繋がるアドバイスを行っている</li> <li>・機会を設けてはいないが、活動の中や提案やアドバイスをする際に話をすることはある</li> </ul>
保護者へ	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」と示しながら支	○				

	援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている					
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーハイザーに助言をもらい、保護者へフィードバックを行っている</li> </ul>	
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の交流会を実施している</li> </ul>	
36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速にかつ適切に対応している	○				
37	定期的に会報等と発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
38	個人情報の取扱いに十分注意している	○				
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされている		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーに関しては以前保護者から聞きとった状況から変化がないか確認する事例があった</li> <li>・医師よりの情報はもらっていない</li> </ul>
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内でも内容、対策を共有していきたい</li> </ul>
	46	虐待を防止するため、職員研修機会を確保する等、適正な対応をしている	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインによる研修に参加している</li> </ul>
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に身体拘束を行ったケースがない</li> </ul>